

旧若杉小学校跡地の本格活用に関する 検討まとめ



令和7（2025）年11月



目次

- 1. はじめに P. 1
- 2. 旧若杉小学校跡地の概要 P. 2
- 3. 意見聴取の取組 P. 3
- 4. 活用方法（たたき台）の作成
 - 4－1. 活用方法（たたき台）作成までの流れ P. 8
 - STEP 01 ポイントの整理 P. 9
 - STEP 02 コンセプトの設定 P. 13
 - STEP 03 エリアの設定 P. 15
 - 4－2. 活用方法（たたき台）の概要 P. 16
- 5. 活用方法（素案）の作成
 - 5－1. 活用方法（たたき台）への意見を踏まえた活用方法（素案）の作成 . P. 17
 - 5－2. 活用方法（素案）の概要 P. 18
- 6. 活用方法（案）の作成
 - 6－1. 活用方法（素案）への意見を踏まえた活用方法（案）の作成 P. 19
 - 6－2. 活用方法（案）の概要 P. 20
- 7. 各施設等の整備に当たって P. 21
- 8. 今後のスケジュール P. 25

1. はじめに

旧若杉小学校跡地は、平成20(2008)年3月末に若杉小学校が閉校した後、保育施設の用途等で暫定活用してきましたが、本格活用を求める地域の声や暫定活用を行っている施設の移転などの状況を踏まえて、令和5(2023)年度から本格活用に向けた検討を開始しました。

本格活用に向けた検討では、平成20(2008)年の地元町会や商店会、学校関係者の方による提言に加え、幅広く意見を聴くため、意見交換会やワークショップのほか、荻窪駅前でのオープンハウス等を開催し、多くの地域住民等と共に活用方法を考えてきました。

また、天沼小学校では、総合的な学習の時間を使って、跡地活用のアイデアを考えてもらったほか、天沼中学校においては、生徒会の役員生徒が全校生徒へのアンケートを実施した上で、跡地活用のアイデアをまとめてくれました。さらに、保育園及び児童館の利用保護者へアンケートを実施するなど、意見交換会等への参加が少ない子どもや子育て世代からの意見聴取も丁寧に行ってきたところです。

地域住民等からは「誰でも気軽に立ち寄れ、つながりが生まれるような場にしてほしい」や「周辺は住宅が密集しているところも多いので、地域の防災性を考慮した活用方法としてほしい」、「小学校跡地なので、子どものために活用してほしい」などの意見が寄せられました。

これらの意見等を踏まえ、区では、本格活用に向けて、「誰でも気軽に立ち寄れる」「災害時に活用できる」「つながりが生まれる」「地域の子どもを育む」の4つのコンセプトを設定しました。

コンセプトに基づいて作成した活用方法（案）では、誰でも予約なしで利用でき、つながりが生まれる施設等として、公園のほか、屋内にラウンジ等を設置することとし、これまでの震災救援所の機能を継続できるようにした上で、災害時の避難スペースとして活用を図ります。

また、上荻保育園及び上荻児童館を移転改築することで、公園と隣接し、子どもたちが伸び伸びと身体を動かせるようになるほか、天沼小学校から児童館の学童クラブに通う子どもたちが青梅街道を渡らなくてもよくなるなど、子どもたちの安全性の向上を図ります。さらに、東京消防庁が長年にわたって改築用地を探してきた荻窪消防署天沼出張所について、移転改築することで十分な敷地面積を確保し、地域の防災力の向上を図ります。

本検討まとめは、これまでの意見聴取の取組のほか、本格活用に関する活用方法（案）の作成までの検討経過等を整理したもので、今後の施設等の整備に向けた基礎資料として活用していきます。

なお、各施設等の詳細は、令和8(2026)年度以降に実施する基本設計等において、引き続き地域住民等の意見を聴きながら検討を行います。

また、各施設等の整備後も、これまでの意見聴取の取組を大切にしながら、地域住民等と共に、地域に愛される施設づくりに取り組んでいきます。



2. 旧若杉小学校跡地の概要

旧若杉小学校跡地は、荻窪駅北口から徒歩約7分の場所にあり、商店や事業所、住宅が混在する地域に位置しています。

<敷地概要>

敷地面積：7,424.14㎡

用途地域：第一種中高層住居専用地域

指定建ぺい率：60%

指定容積率：200%



<閉校からこれまで>

若杉小学校は、平成20(2008)年3月末に閉校し、杉並第五小学校と統合して天沼小学校になりました。天沼小学校は、当初、旧若杉小学校の校舎で運営を行った後、平成23(2011)年1月に現在の場所（旧杉並第五小学校跡地）に建設した新校舎に移転しました。

その後、旧若杉小学校跡地は、待機児童解消のための緊急対策として保育施設の用途等で暫定活用してきましたが、本格活用を求める地域の声や暫定活用を行っている施設の移転などの状況を踏まえて、令和5(2023)年度から本格活用に向けた検討を開始しました。

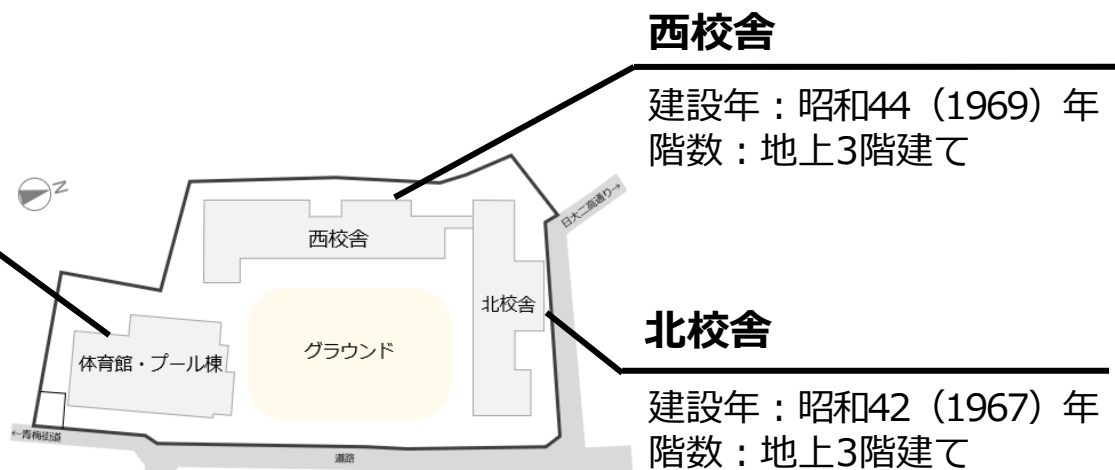
<既存校舎の取扱い>

既存校舎（築45～58年）を改修して活用する場合、構造上、大幅な間取り変更が困難であるほか、バリアフリー対応に課題が残り、本格活用の検討や施設利用に当たって、様々な制約が出ることが想定されます。一方で、既存校舎を解体して建て替える場合、建物配置の変更や防災空地の確保など敷地の有効活用が図られるとともに、設計の自由度が高いため用途に合わせた施設建設が可能となります。

こうした点を含め、費用対効果等を総合的に勘案した結果、既存校舎は解体することとします。

体育館・プール棟

建設年：昭和55（1980）年
階数：地上2階建て



西校舎

建設年：昭和44（1969）年
階数：地上3階建て

北校舎

建設年：昭和42（1967）年
階数：地上3階建て

3. 意見聴取の取組

(1) 旧若杉小学校跡地活用に係る懇談会の開催

地元町会や商店会、学校関係者の方による懇談会を設置し、「地域の防災性を考慮し、できるだけ広くオープンスペースを確保し、通常は子どもたちや地域の人々が利用できるようにする」などの跡地活用にに向けた3つの提案を受けました。

回数	日にち	主な内容
1	平成20(2008)年8月20日(水)	・ 検討資料及び今後の進め方等を説明 ・ 跡地活用についての懇談
2	平成20(2008)年9月24日(水)	・ 跡地活用についての懇談 ・ 意見集約に向けた論点整理
3	平成20(2008)年12月22日(月)	・ 提言のまとめ

旧若杉小学校跡地活用に係る懇談会提言

平成20年12月
旧若杉小学校跡地活用に係る懇談会

(2) 旧若杉小学校の本格活用に向けた意見交換会の開催

地元町会の方と地域の課題等について意見交換し、「防災は重要なキーワード。誰でも平等に使える跡地活用の方法を検討してほしい」、「道路も狭く住宅も近いことを踏まえて、跡地活用を検討してほしい」といった意見を伺いました。

回数	日にち	参加者数	主な内容
1	令和5(2023)年6月24日(土)	17名	・今後の取組スケジュール及び他自治体における学校跡地の活用事例等を説明 ・意見交換
2	令和5(2023)年8月1日(火)	15名	・旧若杉小学校を見学 ・旧若杉小学校の現状についての意見交換
3	令和5(2023)年11月21日(火)	13名	・旧若杉小学校周辺地域の基礎情報や課題等を説明 ・令和6年度に開催する地域懇談会（ワークショップ）等について説明 ・意見交換
4	令和6(2024)年3月21日(木)	12名	・既存校舎の躯体状況に係る調査結果を説明 ・令和6年度に開催する地域懇談会（ワークショップ）等について説明 ・意見交換
5	令和6(2024)年5月14日(火)	14名	・既存校舎の取り扱い等を説明 ・意見交換

3. 意見聴取の取組

(3) 天沼小学校の児童へのアンケート等の実施

天沼小学校の6年生を対象として、旧若杉小学校跡地の活用アイデアに関するアンケートを実施しました。アンケートでは、屋内の遊び場（ラウンジ、カフェ、図書館など）のほか、スポーツセンターやプール、公園などの設置を求める意見がありました。

また、総合的な学習の時間を使って、2つのグループが旧若杉小学校跡地の活用アイデアを検討しました。各グループからは「子どもから高齢者まで幅広い世代の交流の場となるような子ども食堂としての活用」や「広い公園・運動場としての活用」といった提案がありました。

回数	日にち	回答者数	主な内容
1	令和6(2024)年 9月12日(木)～9月20日(金)	106名	・旧若杉小学校跡地の活用アイデアに関するアンケートを実施

(4) 天沼中学校の生徒へのアンケート等の実施

天沼中学校の生徒会役員が中心となって、全校生徒を対象とした旧若杉小学校跡地の活用アイデアに関するアンケートを実施しました。その後、アンケート結果を踏まえて、生徒会の役員生徒が、「災害時には避難所としても活用できる、屋外・屋内の様々な運動が楽しめる場所」や「勉強やおしゃべりができるカフェなどが入ったショッピングモール」の設置といった「みんなにとっていきやすい場所」となるような活用アイデアをまとめました。

こうした活用アイデアは、令和6(2024)年12月15日に開催した「旧若杉小学校跡地の本格活用に関するワークショップ」で生徒会の役員生徒が発表しました。

回数	日にち	回答者数	主な内容
1	令和6(2024)年 11月中旬～11月26日(火)	200名	・旧若杉小学校跡地の活用アイデアに関するアンケートを実施

＜天沼小学校での総合的な学習の時間の様子＞



＜天沼中学校の生徒会役員によるワークショップでの発表の様子＞



3. 意見聴取の取組

(5) 旧若杉小学校跡地の本格活用に関するワークショップの開催

参加者を公募した上で、跡地活用のコンセプト等を検討するワークショップを全4回開催しました。ワークショップでは、7つのグループに分かれて検討を行い、各グループの検討結果を成果物ワークシートにまとめました。

各グループの成果物ワークシートについては、P9～12をご覧ください。

回数	日時	会場	参加者数	主な内容
1	令和6(2024)年11月2日(土) 午後2時～午後5時	旧若杉小学校 体育館	47名	・地域が抱える課題等を共有
2	令和6(2024)年12月15日(日) 午後2時～午後5時		40名	・7グループに分かれて、跡地活用に向けたアイデアを意見交換
3	令和7(2025)年1月26日(日) 午後2時～午後5時		39名	・各グループで跡地活用のコンセプト等を検討
4	令和7(2025)年2月23日(日) 午後2時～午後5時		38名	・跡地活用のコンセプト等に基づき成果物ワークシートを作成

(6) ワークショップの成果物ワークシート等に関するオープンハウスの開催

ワークショップで作成した各グループの成果物ワークシート等をパネル展示し、ワークショップ参加者以外の方からも意見を伺いました。オープンハウスでは「全員が利益を享受できる施設ができると嬉しい」などの意見がありました。

回数	日時	会場	参加者数	主な内容
1	令和7(2025)年3月28日(金) 午後4時～午後8時	旧若杉小学校 体育館	53名	・ワークショップの成果物ワークシート等をパネル展示 ・パネル内容等に対するアンケートを実施(※)
2	令和7(2025)年3月29日(土) 午前10時～午後4時	荻窪タウンビル 荻窪駅前北口 広場	154名	

※令和7(2025)年3月15日(土)～4月6日(日)の間、区ホームページ上でも同様のアンケートを実施(回答数:会場30件、区ホームページ24件)

3. 意見聴取の取組

(7) 旧若杉小学校跡地の活用方法（たたき台）に関するオープンハウスの開催

ワークショップ等の結果を踏まえて区が作成した3つのたたき台をパネル展示し、地域住民等の意見を伺いました。オープンハウスでは、「地域の憩いの場になるようなスペースを作ってほしい」などの意見がありました。
たたき台の概要については、P16をご覧ください。

回数	日時	会場	参加者数	主な内容
1	令和7(2025)年7月11日(金) 午後3時～午後7時	荻窪駅前北口 ビル 荻窪駅前北口 広場	198名	・3つのたたき台について パネル展示 ・パネル内容等に対する アンケートを実施（※）
2	令和7(2025)年7月12日(土) 午後1時～午後3時	旧若杉小学校 体育館	31名	

※令和7(2025)年7月10日（木）～7月27日（日）の間、区ホームページ上でも同様のアンケートを実施（回答数：会場33件、区ホームページ49件）

(8) 旧若杉小学校跡地の活用方法（たたき台）に関する意見交換会の開催

区が作成した3つのたたき台について説明を行った上で、公募によって参加した地域住民等と意見交換しました。意見交換会では、「上荻保育園及び上荻児童館の移転改築に当たっては、当事者の意見も聞いた方が良い」などの意見がありました。

回数	日時	会場	参加者数	主な内容
1	令和7(2025)年7月12日(土) 午後3時30分～午後5時	旧若杉小学校 体育館	22名	・3つのたたき台について 意見交換

(9) 上荻保育園及び上荻児童館の利用保護者へのアンケートの実施

たたき台に関する意見交換会での「当事者の意見も聞いた方が良い」等の意見を踏まえて、上荻保育園及び上荻児童館の利用保護者へアンケートを実施しました。アンケートでは、多くの方が「公園に隣接するため、これまでよりも子どもたちが伸び伸びと身体を動かせるようになる」、「天沼小学校に近くなるとともに、青梅街道を渡る必要がなくなるため、これまでよりも安全に児童館や学童クラブに通うことができる」と回答しました。

回数	日にち	回答者数	主な内容
1	令和7(2025)年 8月8日(金)～9月7日(日)	66名	・上荻保育園及び上荻児童館の移転改築に関するアンケートを実施

3. 意見聴取の取組

(10) 旧若杉小学校跡地の活用方法（素案）に関するオープンハウスの開催

たたき台への意見や、上荻保育園及び上荻児童館の利用保護者へのアンケート結果等を踏まえて作成した2つの素案をパネル展示し、地域住民等の意見を伺いました。オープンハウスでは、「上荻保育園及び上荻児童館の移転改築は、子どもたちのことを考えると地域としても良いと思う」などの意見がありました。

素案の概要については、P18をご覧ください。

回数	日時	会場	参加者数	主な内容
1	令和7(2025)年10月24日(金) 午後1時～午後5時	荻 窪ｸﾝﾍﾞﾝ ビル 荻窪駅前北口 広場	113名	・2つの素案についてパネル 展示 ・パネル内容等に対する アンケートを実施（※）

※令和7(2025)年10月23日（木）～11月3日（月）の間、区ホームページ上でも同様のアンケートを実施（回答数：会場5件、区ホームページ20件）

(11) 旧若杉小学校跡地の活用方法（素案）に関する意見交換会の開催

2つの素案について説明を行った上で、公募によって参加した地域住民等と意見交換しました。意見交換会では、「荻窪消防署天沼出張所を移転改築する場合は、音の問題等について近隣への配慮が必要。庁舎の配置は、南側よりも北側が良いのでは」などの意見がありました。

回数	日時	会場	参加者数	主な内容
1	令和7(2025)年10月25日(土) 午後3時～午後5時	旧若杉小学校 体育館	15名	・2つの素案について意見 交換



意見聴取の取組で使用した資料及びアンケート結果等については、
区ホームページ（右二次元コード又は以下URL）をご覧ください。
（URL：<https://www.city.suginami.tokyo.jp/s002/1346.html>）



4-1. 活用方法（たたき台）作成までの流れ

たたき台の作成に当たっては、令和6(2024)年度のワークショップで各グループが作成した成果物ワークシートやオープンハウスでの意見等を踏まえて、STEP 01「ポイントの整理」→STEP 02「コンセプトの設定」→STEP 03「エリアの設定」の順に沿って検討を行いました。詳細については、次ページ以降をご覧ください。

STEP 01

ポイントの整理

ワークショップで各グループが作成した成果物ワークシートやオープンハウスでの意見等を踏まえて、本格活用におけるポイントを区で整理しました。

STEP 02

コンセプトの設定

STEP 01で整理したポイントを踏まえて、本格活用における4つのコンセプトを設定しました。

コンセプト
1

誰でも気軽に立ち寄れる

コンセプト
2

災害時に活用できる

コンセプト
3

つながりが生まれる

コンセプト
4

地域の子どもを育む

STEP 03

エリアの設定

STEP 02で設定した4つのコンセプトを具体化する4つのエリアを設定しました。

公園エリア（屋外）

子どもエリア(上荻保育園・上荻児童館)

共有エリア（建物）

消防エリア(荻窪消防署天沼出張所)

CHECK

たたき台の作成

STEP 03で設定した4つのエリアを組み合わせ、3つのたたき台を作成しました。たたき台の概要については、P16をご覧ください。

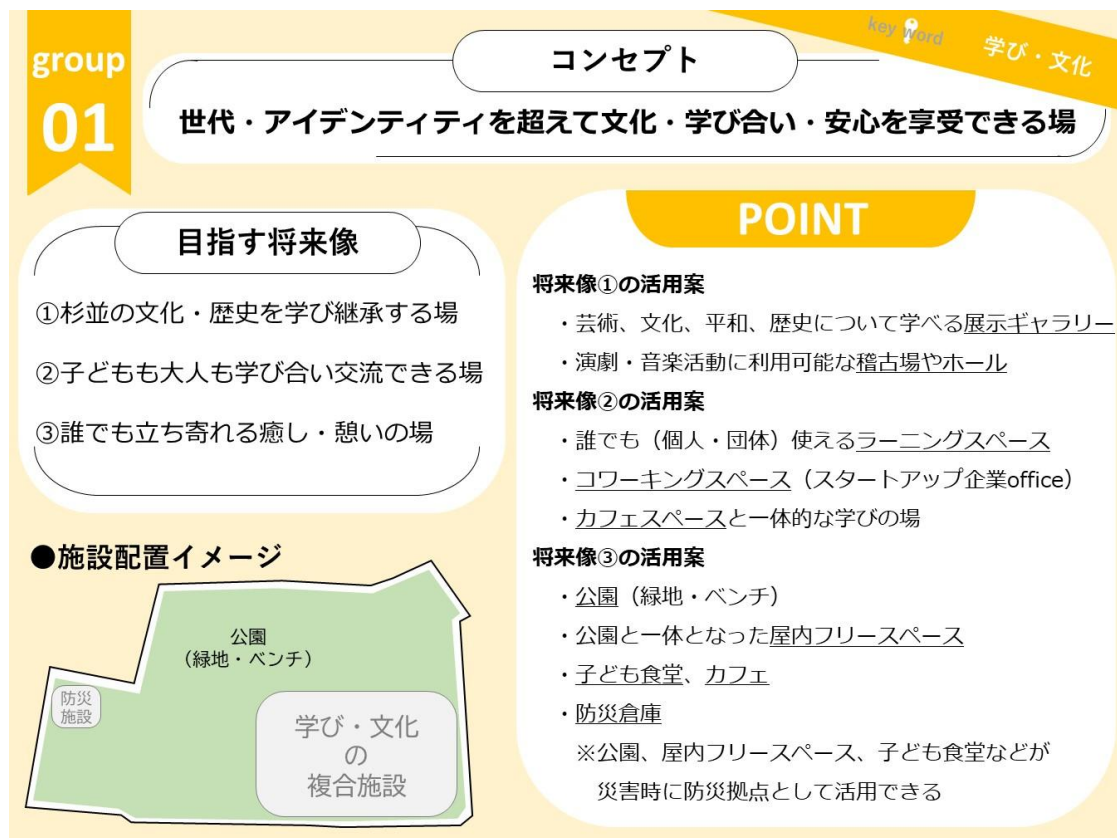
4-1. 活用方法（たたき台）作成までの流れ

STEP 01

ポイントの整理

ワークショップで各グループが作成した成果物ワークシートやオープンハウスでの意見等を踏まえて、本格活用におけるポイントを区で整理しました。

グループ1が作成した成果物ワークシート



(オープンハウスでの主な意見)

- ・ 旧科学館の復活、将来日常を支えるサイエンス＆テクノロジーを学ぶ場、小柴先生のノーベル賞の業績の常設展示。将来のノーベル賞を期待して。
- ・ 杉並区には美術館がないのでほしい！
- ・ 杉並区には多数のアニメ制作会社があるため、彼らの創作活動の場などとして活用すれば、より多くの人が集まる空間になるだろう。

(アンケートでの主な意見)

- ・ 荻窪駅北側は公園が少ないので、公園や用途を限定しない建物が必要だと思った。区切られた部屋の方が利用しやすい。
- ・ 展示ギャラリーや稽古場、ホールを安く利用できれば子ども、若者、現役世代が興味を持ってくれる。
- ・ 子どもだけでなく、大人も勉強できる場所。
- ・ 次世代の人材育成につながるアイデアが良い。
- ・ 防災とみんなが集えるという視点。
- ・ 防災スペースがあるのと複合施設があるのが良かった。
- ・ 防災と地域の活性化につながるアイデアだと思う。

整理した ポイント

- 世代、個人・団体を問わず学び合い交流できる（1-1）
- 杉並の文化・歴史などを学び継承できる（1-2）
- 誰でも立ち寄れる癒し・憩いの場（1-3）

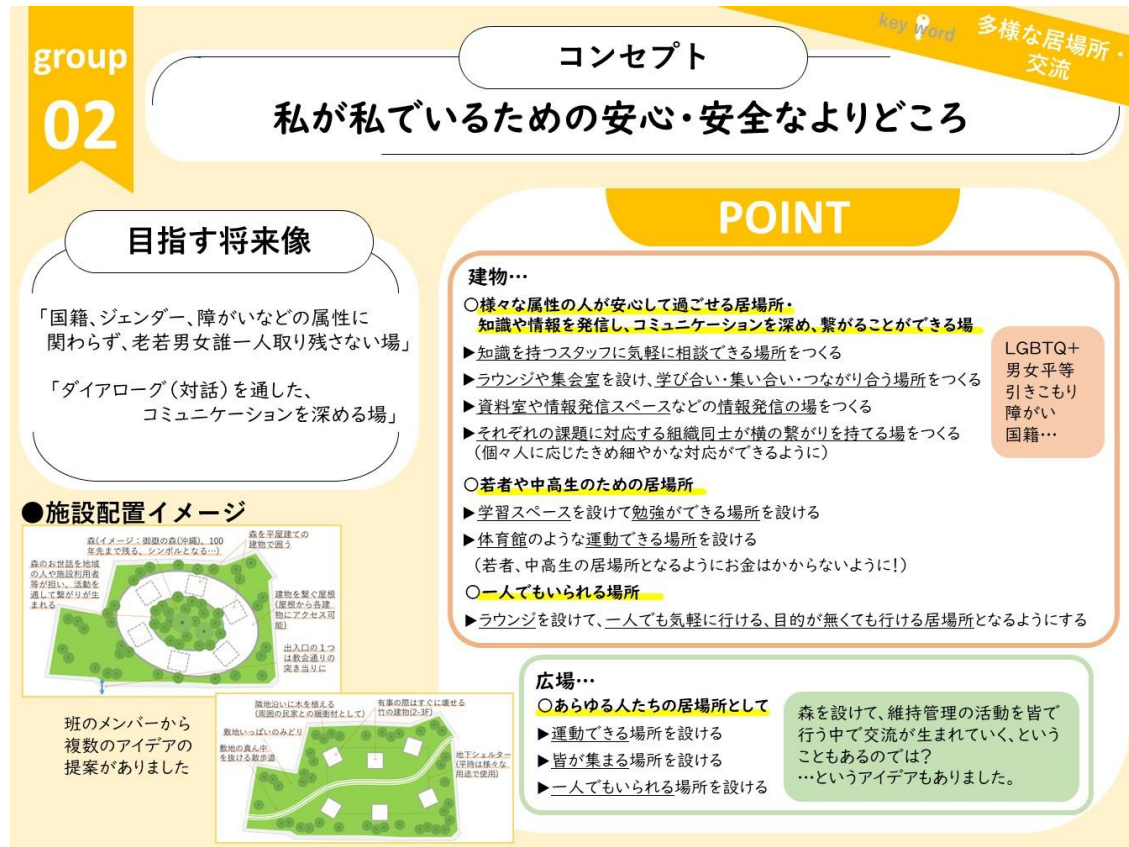


4-1. 活用方法（たたき台）作成までの流れ

STEP 01

ポイントの整理

グループ2が作成した成果物ワークシート



（オープンハウスでの主な意見）

- ・施設配置イメージが良い。余分な建物は不要。
- ・外国由来の人々が区内でも多く働き、子どもたちもたくさん育っている。日本社会で暮らし、共生しつつ、母語文化も尊重すべきなのは、隣人として当然。彼女ら、彼らのための施設も考えていくべきだ。
- ・現在ある女性センターはゆう杉並の一部を使う暫定的印象が否めなかった。広くジェンダー平等を目指す施設を今回を機会に杉並区でも旧若杉小学校跡地にぜひ設置してほしい。
- ・住む場所のない人のために有効的に活用してみれば。

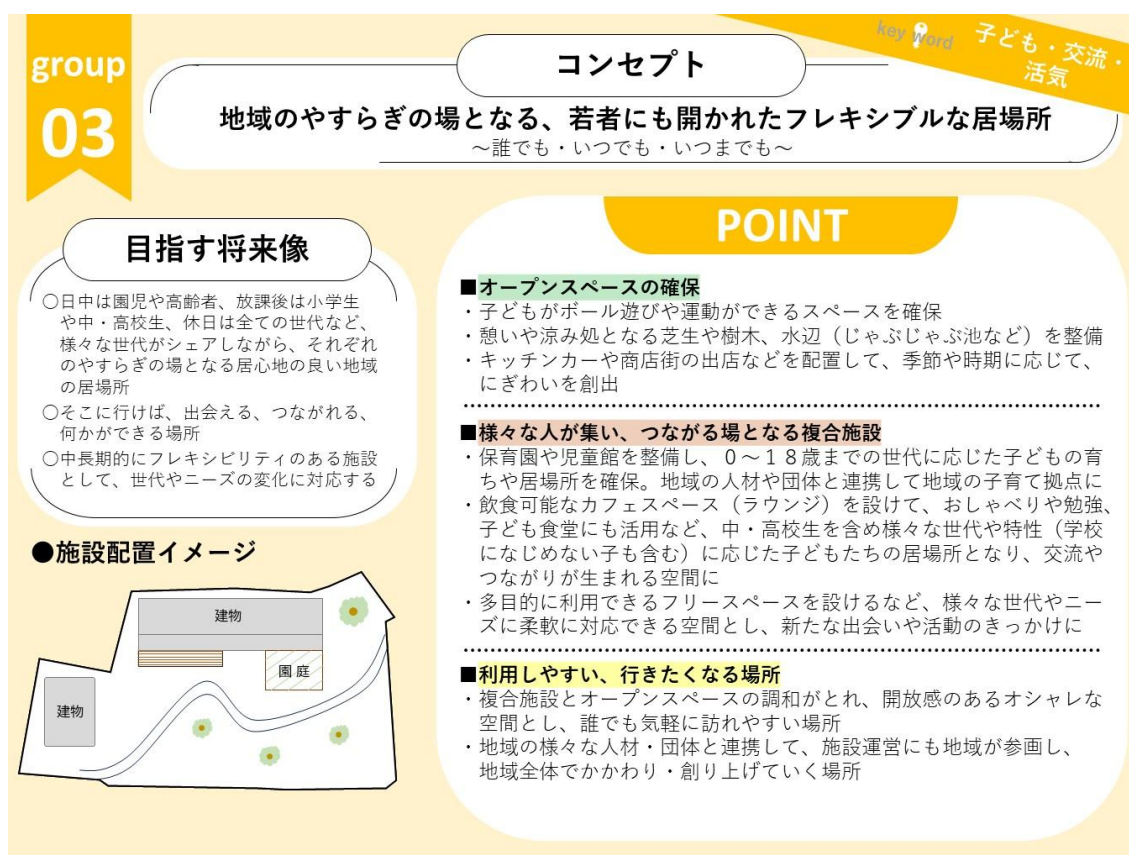
（アンケートでの主な意見）

- ・広さを感じられる空間構成。
- ・防災とみんなが集えるという視点。
- ・若杉小学校を閉校して作られる施設なので、天沼小学校と天沼中学校の生徒の意見は特に重要だと思う。特に、天沼小学校は校舎に対して生徒の人数が増えて、子どもたちや保護者に不便を強いている現状を考慮すべきだと感じる。

整理した ポイント

- 属性に関わらず、誰もが一人でも気軽に行けて、安心して過ごせる（2-1）
- コミュニケーションを深め、つながることができる（2-2）
- 若者や中高生のための場（2-3）

グループ3が作成した成果物ワークシート



（オープンハウスでの主な意見）

- ・タイムシェアの発想が実に面白い。

（アンケートでの主な意見）

- ・0～18歳向きというコンセプトに共感した。
- ・オープンスペースと建物のバランスが良いと思う。
- ・防災を想定しているところは重要。
- ・時代の変化とともに、地域住民の構成やニーズが変化してその時々が必要となる内容も変化することを考えると、目指す将来像にある種の普遍性が求められると考える。その点、適切と判断した。
- ・オープンスペース、ボール遊び可、利用しやすい、行きたくなる場所。
- ・保育園や児童館の整備、芝生、キッチンカーなどのにぎわい。
- ・複合施設と広いスペースが確保されていて、調和が取れている。
- ・子どもや高齢者と比べ、中高生や若者に向けた支援や居場所づくりはどうしても弱くなりがちである。この世代を対象とした機能に重点が置かれている点が良い。災害時に最も戦力になるのも中高生や若者世代で、平時から訪れてもらえる場所とすることが重要である。

整理した ポイント

- 様々な世代が安らぐことができる（3-1）
- 0～18歳までの世代に応じた子どものための場（3-2）
- 世代やニーズの変化に対応でき、新たな出会いや活動のきっかけになるフレキシビリティのある場（3-3）

4-1. 活用方法（たたき台）作成までの流れ

STEP 01

ポイントの整理

グループ4が作成した成果物ワークシート

group
04

コンセプト
防災公園を!! 平常時はいろいろな用途に活用!

POINT

目指す将来像

●施設配置イメージ

防災・
広いオープンスペース

防災の視点

●防災公園を!

●平常時の活用

(例) 1F

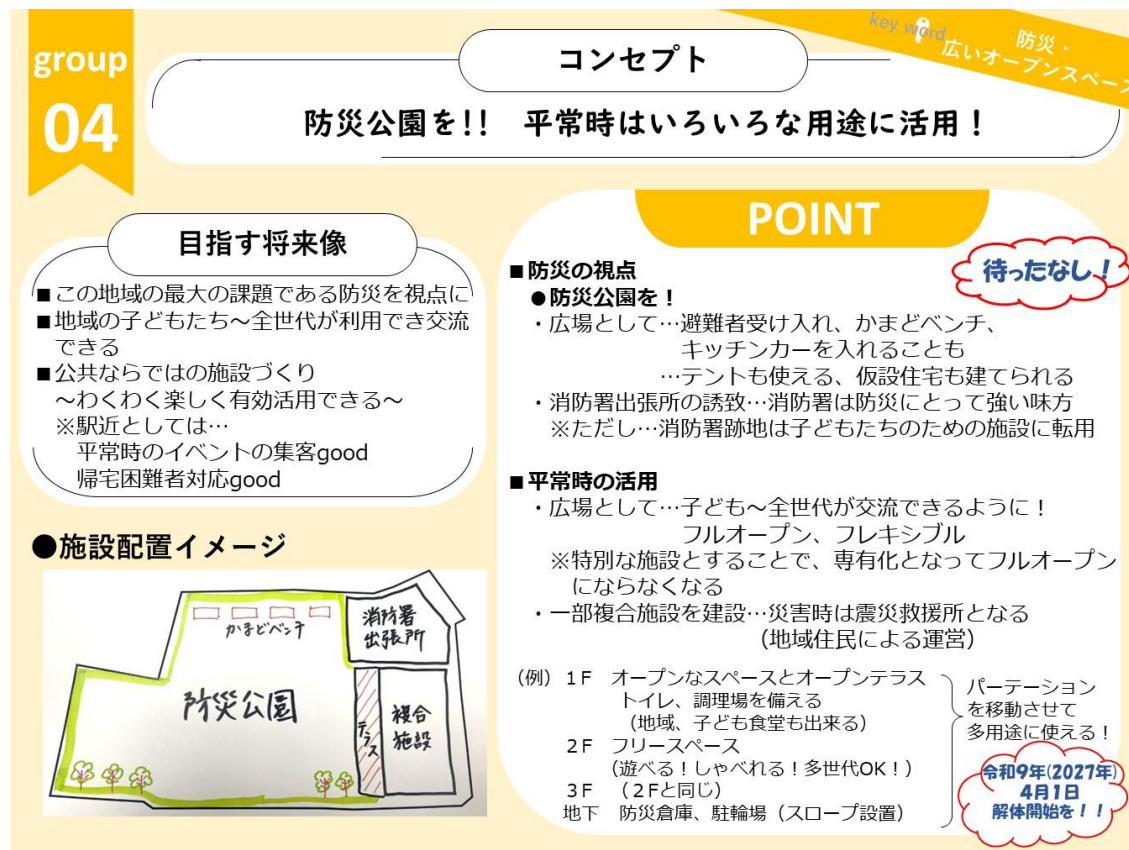
2F

3F

地下

待たなし!

令和9年(2027年)
4月1日
解体開始を!!



(オープンハウスでの主な意見)

- ・防災を真ん中に、日々は子どもたちがのびのび遊べて、災害時に必要な食堂、トイレ大事だと思う。
- ・防災重視は共感する。
- ・密集地域には消防署は必要!!
- ・あまりお金をかけずとにかく早くとりかかってほしい。
- ・防災公園にして、何も建物を置かない広場にするのが良いと思う。

(アンケートでの主な意見)

- ・防災公園は今後必要だと思う。
- ・防災対策は強化が必要な地域。日常は、公園やイベントスペースとして利用できると良い。
- ・消防署の出張所が含まれている点。
- ・子どもの居場所になれそう。
- ・荻窪駅前近辺に大きな公園がないため、防災上はとても良い案だと思った。また、コンパクトな複合施設ともバランスが良い。
- ・荻窪近辺は住宅が密集しているので、大規模災害に備えた防災の拠点が必要だと思う。
- ・一定人数を収容できる建物と広いオープンスペースが、震災救援所の視点を持って設けられている点が良い。

整理した ポイント

- 防災公園、震災救援所、消防署出張所など、地域の防災力向上に資する場（4-1）
- 子どもから高齢者まで全世代が利用でき、交流できる（4-2）
- わくわく楽しく、多用途に活用できる施設（4-3）

グループ5が作成した成果物ワークシート

group
05

コンセプト
のんびり過ごせて、つながりが生まれる、いざという時の防災拠点

POINT

目指す将来像

●施設配置イメージ

防災・
子ども・防災

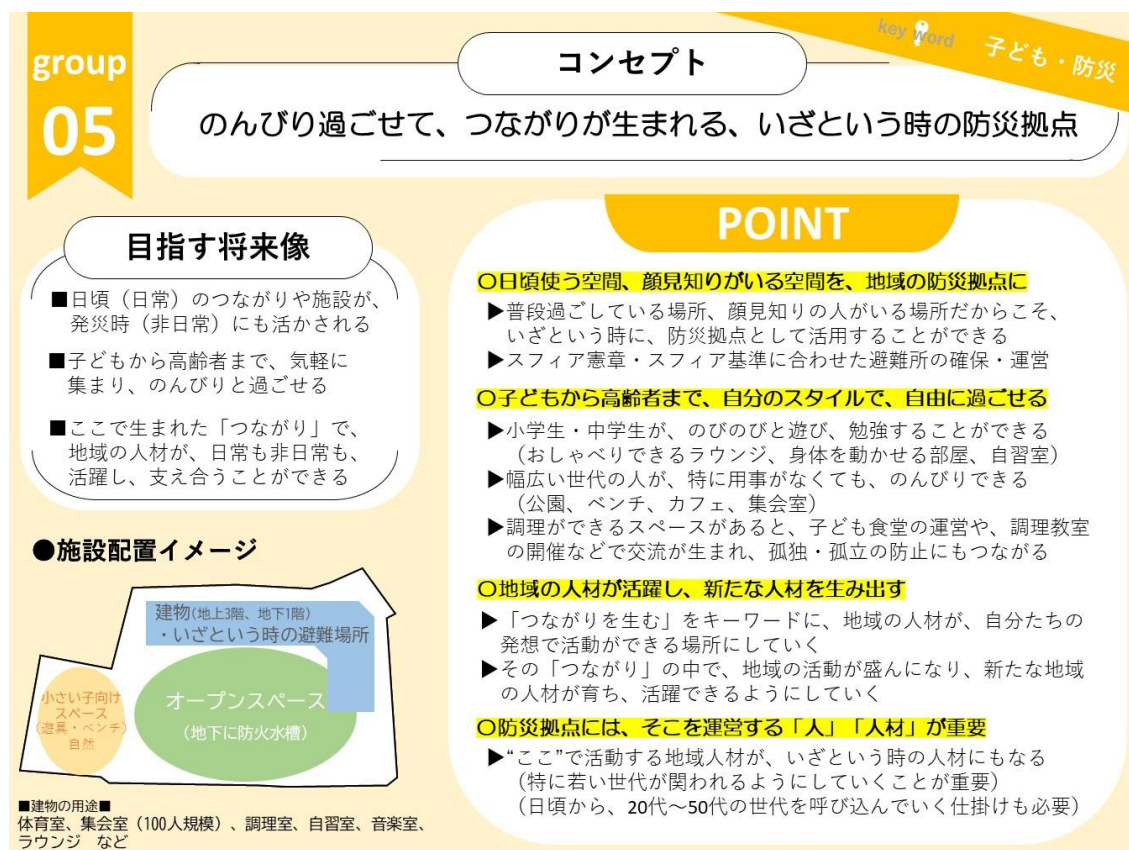
○日頃使う空間、顔見知りがある空間を、地域の防災拠点に

○子どもから高齢者まで、自分のスタイルで、自由に過ごせる

○地域の人が活躍し、新たな人材を生み出す

○防災拠点には、そこを運営する「人」「人材」が重要

■建物の用途■



(オープンハウスでの主な意見)

- ・「防災拠点」といっても日常的に使っている人たちが大事な人材になるので、そんな人たちが集まれる機能が大切。
- ・防災拠点、地域の交流の場。

(アンケートでの主な意見)

- ・防災を想定しているところは重要。
- ・オープンスペースと建物のバランスが良い。
- ・誰でも使える施設。
- ・荻窪北口の防災拠点として活用すべきと考える。
- ・20～50代の世代の施設ができるのは良い。
- ・首都直下型の大地震の発生は待たなしの状況。
- ・いざというときの防災拠点。
- ・災害への備えと同時に、特に日常のつながりに活かせるというのがいい。
- ・防災拠点、防災公園。
- ・防災性。
- ・広域の火災などからの逃げ場所の確保と、この広場自体を火から守るための大量の水の確保。

整理した ポイント

- 地域の防災拠点になる日常の居場所（5-1）
- 子どもから高齢者まで、気軽に集まり、のんびりと過ごせる（5-2）
- つながりを生み、地域の人が活躍できる（5-3）

4-1. 活用方法（たたき台）作成までの流れ

STEP 01

ポイントの整理

グループ6が作成した成果物ワークシート

group
06

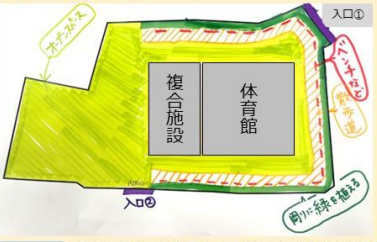
コンセプト
天沼みんなの家

key word 多様な居場所・防災

目指す将来像

- 自分の家のように安心できる場所
- 日々のつながりが生まれる場所
- いざという時に地域の人頼ることができる場所

●施設配置イメージ



POINT

- ・建物を見ん中に配置し、日よけができるようにする
- ・周りには緑を植えて、散歩道を設ける
- ・オープンスペースは芝ではない素材で整備する

POINT

1 世代や用途を問わず誰でも使える場所

- ✓ フリースペースを設けて、地域の人からリクエストがあった催しを開催できるように（平和に関するイベントなど）
- ✓ 施設の1階はガラス張りにして、イベント開催時には開放して屋外のオープンスペースと一体で活用できるように
- ✓ 図書館の本が貸出・返却できたり、壁が移動する自習室も完備
- ✓ 重症心身障害児通所施設「わかば」のような福祉施設を入れて、災害時には利用者がそのまま待機できるように

2 地域の人々が集い、みんながホッとできる場所

- ✓ 屋外のオープンスペースではキッチンカーが来たり、お祭りを開催したり、楽しめる場所に
- ✓ コンセントの設置や低額で飲み物が買えるようにして、子どもたちの居場所になるように
- ✓ 1階のカフェスペースでは、子ども食堂や認知症カフェを実施
- ✓ 建物の周りには散歩道を設けて、散歩道沿いにはベンチを設置し、公園を見渡しながらおしゃべりが楽しめるように
- ✓ 屋上には遊具のある公園、地下には駐輪場を設ける

3 いざという時に震災救援所として機能する防災拠点

- ✓ 震災救援所として活用できる体育館や災害時にも使えるシャワー室を整備
- ✓ 地下には応急給水槽として機能する貯水池や核シェルターを

（オープンハウスでの主な意見）

- ・お祭りなど、楽しめる場所になりそう。
- ・福祉機能がついていることが大事だと思う。カフェで収益をあげて、修繕などに使えると良いと思う。
- ・Wi-Fiや調べもののためのパソコンなどもある自習室があると便利だと思う。一息つけるカフェやドリンクバーなどもあったらうれしい。

（アンケートでの主な意見）

- ・幅広い年齢層の人たちが集う。木陰を散歩できる散歩道。イベントができるオープンスペース。
- ・小～大（18～20歳）の子たちの居場所が必要。
- ・地下に駐輪場は良いと思う。
- ・災害時に避難場所として使える体育館があると思う。また、図書館の本の返却ができることと便利。
- ・防災とみんなが集えるという視点。
- ・障害児が安心して過ごせる施設があると良い。
- ・図書館の機能、ラーニングスペースが必要だと思う。
- ・世代や用途を問わず誰でも使える場所。

整理した ポイント

- 世代や用途を問わず、人々が集い、安心できる（6-1）
- 日々のつながりが生まれる（6-2）
- 震災救援所として機能する防災拠点（6-3）

グループ7が作成した成果物ワークシート

group
07

コンセプト
「つながる・育む・楽しむ天沼」
～子育てを中心とした
地域活性に根差した天沼施設～

key word にぎわい・交流

目指す将来像

- 地域のつながりを育み、楽しむにぎわいの場所
- 地域の子どもをみんなで育む多様性に富んだ場所
- 災害時にも活用できるみどり豊かなオープンガーデン

●施設配置イメージ



施設配置イメージは一例です。
他にも、複数のアイデアがありました。

POINT

つながりを育み・楽しむにぎわいの場所

- ▶地域のコミュニティ施設とする
～気軽に立ち寄ることができる、互いの顔が見える場所～
- ▶多用途に活用する
→例：ラウンジにテーブル・ソファを設置し交流広場として活用、フードコート（子どもは割引で子ども食堂の代わりに）、コワーキングスペース・チャレンジショップ、集会室、展示スペースを活用した企画展
- ▶体育館を整備し、多目的に活用する（収納室、可動ステージ・席などを設置）
→災害時には建物を活用して避難者の受け入れ等を行う

地域の子どもを育む

- ▶子どもを安心して預けられる、遊べる環境を整備する
→保育園・児童館（中・高校生）・学童クラブの設置
- ▶障害の有無や国籍を問わず、多くの方が子どもや地域と交流できる環境を整備する
→福祉作業所・アイプラザ・多文化キッズサロン など

歩いて楽しいオープンガーデン

- ▶オープンガーデン・遊歩道を配置する（並木道・天然芝・屋上テラス）
- ▶涼を配置する（パーゴラ・オーニング・じゃぶじゃぶ池 など）
- ▶災害時は、防災拠点として活用できる工夫を行う
（避難スペース確保、ヘリコプター着陸場所、雨水浸透槽・防災倉庫・貯水槽の設置等）

区財政に優しい施設・運営

- ▶民間のアイデア・投資を促す（東京衛生アドベンチスト病院との連携等）
- ▶PFI事業、森林環境譲与税の活用

（オープンハウスでの主な意見）

- ・子どもが楽しめたり、小学生が運動会などで使えるスペースが欲しい。防災施設や緑の多い公園のような場所と併用できると良いかも！！
- ・児童館の遊戯室があれば、体育館がなくても暑い時でも子どもが遊べる。
- ・地域の健康増進につながるアイデアは必要だと思う。

（アンケートでの主な意見）

- ・保育園や学童、児童館があり、スツキリまとまっている。
- ・住居も職場も近隣です。昼食を取ったり、昼休みを楽しむスペースが欲しいです。
- ・誰でも使える施設。
- ・子どもが自由に運動できるスペースと、体育館が欲しい。また、オープンガーデンは地域の憩いの場となると共に防災スペースなどで使えると感じた。
- ・立地を活かして、衛生病院の特徴である健康教育を区民が身近に取り組める場を提供できれば、区民の健康寿命が延び、医療費の支出の抑制につながる。
- ・子育てを中心としているところが住みやすい街になると思った。

整理した ポイント

- 気軽に立ち寄ることができ、地域のつながりを育み、楽しむにぎわいの場（7-1）
- 地域の子どもをみんなで育む（7-2）
- 災害時にも活用できる（7-3）

4-1. 活用方法（たたき台）作成までの流れ

STEP 02

コンセプトの設定

STEP 01で整理したポイントを踏まえて、本格活用における4つのコンセプトを設定しました。

<整理したポイント>

- ・誰でも立ち寄れる癒し・憩いの場（1-3）
- ・属性に関わらず、誰もが一人でも気軽に行けて、安心して過ごせる（2-1）
- ・様々な世代が安らぐことができる（3-1）
- ・わくわく楽しく、多用途に活用できる施設（4-3）
- ・子どもから高齢者まで、気軽に集まり、のんびりと過ごせる（5-2）
- ・世代や用途を問わず、人々が集い、安心できる（6-1）

コンセプト 1

誰でも気軽に立ち寄れる

子どもから高齢者まで、世代や属性を問わず、誰もが一人でも気軽に立ち寄れて、様々な用途で利用できる

<整理したポイント>

- ・防災公園、震災救援所、消防署出張所など、地域の防災力向上に資する場（4-1）
- ・地域の防災拠点になる日常の居場所（5-1）
- ・震災救援所として機能する防災拠点（6-3）
- ・災害時にも活用できる（7-3）

コンセプト 2

災害時に活用できる

木造建築物の密集度の高い住宅地であることを踏まえてオープンスペースを確保するとともに、災害時の避難スペースなどに活用できる

4-1. 活用方法（たたき台）作成までの流れ

STEP 02

コンセプトの設定

<整理したポイント>

- ・世代、個人・団体を問わず学び合い交流できる（1-1）
- ・杉並の文化・歴史などを学び継承できる（1-2）
- ・コミュニケーションを深め、つながることができる（2-2）
- ・世代やニーズの変化に対応でき、新たな出会いや活動のきっかけになるフレキシビリティのある場（3-3）
- ・子どもから高齢者まで全世代が利用でき、交流できる（4-2）
- ・つながりを生み、地域の人材が活躍できる（5-3）
- ・日々のつながりが生まれる（6-2）
- ・気軽に立ち寄ることができ、地域のつながりを育み、楽しむにぎわいの場（7-1）

コンセプト 3

つながりが生まれる

開かれた空間で人が自然と集まり、つながりのきっかけが生まれる

<整理したポイント>

- ・若者や中高生のための場（2-3）
- ・0～18歳までの世代に応じた子どものための場（3-2）
- ・地域の子どもをみんなで育む（7-2）

コンセプト 4

地域の子どもを育む

子どもや子育て家庭が安心して過ごすことができ、のびのびと活動できる

4-1. 活用方法（たたき台）作成までの流れ

STEP 03

エリアの設定

STEP 02で設定した4つのコンセプトを具体化する4つのエリアを設定しました。

公園エリア（屋外）

子どもから高齢者まで誰でも気軽に立ち寄ることができ、つながりが生まれる場として公園の整備を検討します。

<包含するコンセプト>

①誰でも気軽に
立ち寄れる

②災害時に
活用できる

③つながりが
生まれる

④地域の子ども
を育む

共有エリア（建物）

子どもから高齢者まで誰でも気軽に立ち寄ることができ、つながりが生まれる場として屋内のフリースペース等の整備を検討します。

<包含するコンセプト>

①誰でも気軽に
立ち寄れる

②災害時に
活用できる

③つながりが
生まれる

④地域の子ども
を育む

子どもエリア（建物）

地域の子どもを育む場として、築51年が経過し老朽化が進んでいる近隣の上荻保育園
及び上荻児童館（併設）の移転改築を検討します。

<包含するコンセプト>

②災害時に
活用できる

③つながりが
生まれる

④地域の子ども
を育む

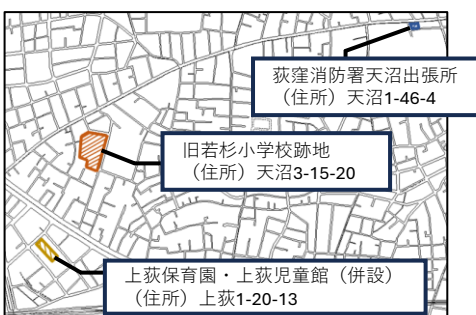
消防エリア（建物）

築65年が経過し老朽化が進んでいる近隣の荻窪消防署天沼出張所の移転改築について、
東京消防庁と共に検討します。

<包含するコンセプト>

②災害時に
活用できる

<各施設の現在地>



<現在の上荻保育園・上荻児童館>



<現在の荻窪消防署天沼出張所>



4-2. 活用方法（たたき台）の概要

STEP 03で設定した4つのエリアを組み合わせ、3つのたたき台を作成しました。

項目	たたき台①	たたき台②	たたき台③
整備する エリア	公園エリア 共有エリア	公園エリア 共有エリア 子どもエリア	公園エリア 共有エリア 子どもエリア 消防エリア
作成の視点	屋外のオープンスペースをできるだけ確保するため、共有エリアの建物のみ建設します。	公園エリア・共有エリアに加え、コンセプトの「地域の子どもを育む」を重視し、子どもエリア(上荻保育園・上荻児童館の移転)を整備します。	公園エリア・共有エリア・子どもエリアに加え、地域の課題解決を図るため、消防エリア(荻窪消防署天沼出張所の移転)を整備します。
公園エリア の面積	3つのたたき台の中で最大 (現校庭(約2,000㎡)の 2.5倍 程度)	3つのたたき台の中で中間 (現校庭(約2,000㎡)の 2倍 程度)	3つのたたき台の中で最小 (現校庭(約2,000㎡)の 1.5倍 程度)
特長	- 公園エリア及び共有エリアは、平常時には誰でも気軽に立ち寄ることができ、つながりが生まれる場となるようにします。 - イベント開催時等には、<u>公園エリアと共有エリアを一体的に利用できるように、共有エリアを開かれた空間にします。</u> ※上記の内容はたたき台②・③も同様	0～18歳までの子どもたちは、公園エリアと共有エリアに加えて、子どもエリアにある児童館を自由に利用することができます。 - 上荻保育園及び上荻児童館の改築に係る<u>仮設建物の整備費用が不要になります。</u> ※上記の内容はたたき台③も同様	地域の課題の一つであった荻窪消防署天沼出張所の老朽化を解決することができます。
留意事項	- 上荻保育園及び上荻児童館を現地改築することになるため、<u>両施設の改築中は旧若杉小学校跡地に仮設建物を建設する想定です。</u> - この場合、まず共有エリアの建物と仮設建物を建設し、<u>仮設建物の活用が終了した後に、仮設建物を解体して公園エリアを整備するため、公園エリアの整備がたたき台②と比べて遅れます。</u>	現在の上荻保育園及び上荻児童館の跡地活用を今後検討していく必要があります。 ※上記の内容はたたき台③も同様	- 緊急車両の往来や訓練時の騒音等が、<u>近隣の住環境に影響を及ぼす可能性があります。</u> - 消防エリアは、区が他のエリアを整備した後に、東京消防庁が荻窪消防署天沼出張所を移転改築します。<u>このため、他のエリアと整備スケジュールが異なり、たたき台②と比べて敷地全体の整備完了が遅れる見込みです。</u>

5-1. 活用方法(たたき台)への意見を踏まえた活用方法(素案)の作成

たたき台に関する意見交換会での「上荻保育園及び上荻児童館の移転改築に当たっては、当事者の意見も聞いた方が良い」などの意見を踏まえて、上荻保育園及び上荻児童館の利用保護者へアンケートを実施しました。

アンケートでは、多くの方から、上荻保育園及び上荻児童館の移転改築によって「公園に隣接するため、これまでよりも子どもたちが伸び伸びと身体を動かせるようになる」、「天沼小学校に近くなるとともに、青梅街道を渡る必要がなくなるため、これまでよりも安全に児童館や学童クラブに通うことができる」と肯定的な回答がありました。

また、天沼小学校の先生等からも「児童の安全面を考えると、小学校から近いところに児童館や学童クラブを整備するのが望ましいのではないか」との意見がありました。

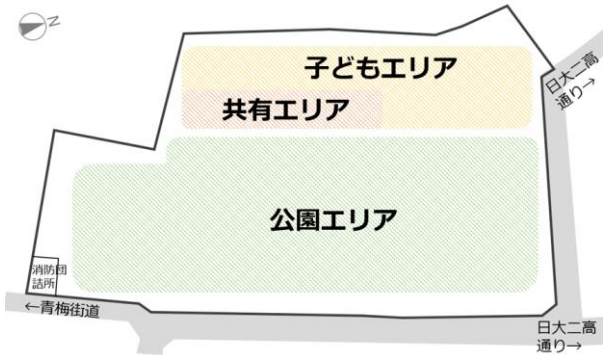
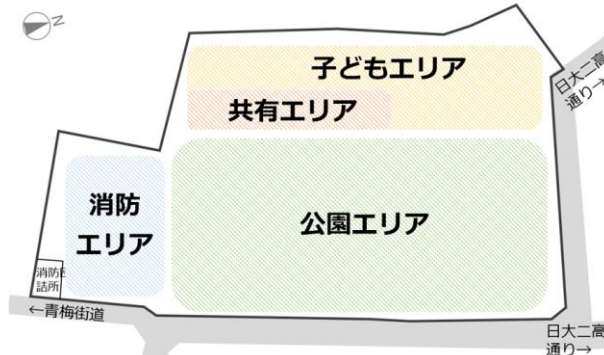
＜上荻保育園及び上荻児童館を移転改築する場合と現在の場所で建て替える場合の比較＞

項目	旧若杉小学校跡地に 移転改築する場合	現在の場所で 建て替える場合
子どもたちの活動場所	○ 保育園や児童館の中に加えて、 <u>公園でも活動しやすい</u>	△ 基本的に保育園や児童館の中で活動
近隣の天沼小学校からの距離	○ 現在の場所と比べると天沼小学校から <u>近くなる</u>	△ 旧若杉小学校跡地と比べると天沼小学校から <u>遠い</u>
周辺道路の状況	△ 周辺道路が狭い	△ 天沼小学校から通う際に、交通量の多い青梅街道を渡る必要がある
荻窪駅からのアクセス	△ 現在の場所と比べると荻窪駅から <u>遠い</u> （徒歩約7分）	○ 荻窪駅から <u>近い</u> （徒歩約4分）
移転改築又は建て替え後の保育園及び児童館の利用開始時期	○ 仮設建物への移転が不要なため、現在の場所で建て替える場合と比べて <u>3年程度早くなる</u>	△ 仮設建物への移転が必要なため、旧若杉小学校跡地に移転改築する場合と比べて <u>3年程度遅くなる</u>
児童館（学童クラブ以外の一般利用）の休館	○ <u>児童館(学童クラブ以外の一般利用)の休館は生じない</u>	△ 仮設建物の利用期間(3年程度)は <u>児童館(学童クラブ以外の一般利用)が休館となる</u>
場所の移動	○ 仮設建物への移転が不要であるため、場所の移動が <u>1回</u> で済む	△ 仮設建物への移転が必要であるため、場所の移動が <u>2回</u> になる
仮設建物に係る費用	○ <u>仮設建物の建設・解体に係る費用(およそ9億円程度)が不要</u>	△ <u>仮設建物の建設・解体に、およそ9億円程度が必要</u>
旧若杉小学校跡地全体の本格活用開始時期	○ 旧若杉小学校跡地での仮設建物が不要になるため、現在の場所で建て替える場合と比べて敷地全体の活用開始時期が <u>4年程度早まる</u>	△ 旧若杉小学校跡地で仮設建物を建設・解体する予定のため、敷地全体の活用開始時期が移転改築の場合と比べて <u>4年程度遅くなる</u>

上荻保育園及び上荻児童館の利用保護者へのアンケート結果や、上記の比較等を踏まえ、上荻保育園及び上荻児童館の移転改築を前提として素案を作成することにしました。

5-2. 活用方法（素案）の概要

素案については、子どもエリアの整備（上荻保育園及び上荻児童館の移転）を含む2つのたたき台（たたき台②及びたたき台③）を基本とした上で、各エリアの整備イメージ（案）や、上荻保育園及び上荻児童館等の移転に伴う各施設の跡地活用に関する検討の方向性を新たに記載しました。

項目	素案①	素案②
整備するエリア	公園エリア 共有エリア 子どもエリア	公園エリア 共有エリア 子どもエリア 消防エリア
整備イメージ（案）	 ＜公園エリア＞ 現校庭（約2,000㎡）の2倍程度を確保 ＜共有エリア+子どもエリア＞ 2～3階建ての建物を整備	 ＜公園エリア＞ 現校庭（約2,000㎡）の1.5倍程度を確保 ＜共有エリア+子どもエリア＞ 2～3階建ての建物を整備 ＜消防エリア＞ 2～3階建ての庁舎等の整備を想定
スケジュール（予定）	＜公園・共有・子どもエリア＞ 令和8(2026)年度～設計 令和9(2027)年度～解体及び建設工事	＜公園・共有・子どもエリア＞ 素案①と同じ ＜消防エリア＞ 公園・共有・子どもエリアの整備後に建設工事
保育園及び児童館等の跡地活用	○現在の上荻保育園及び上荻児童館の跡地については、 荻窪消防署天沼出張所の移転改築 などを含めて、今後、活用方法を検討していきます。	○現在の上荻保育園及び上荻児童館の跡地については、今後、活用方法を検討していきます。 ○荻窪消防署天沼出張所の跡地については、今後、区での活用を検討した上で、活用を希望する場合は東京都と調整していきます。

※具体的な施設配置やスケジュールは、令和8(2026)年度以降に実施する基本設計等で検討します。

6-1. 活用方法(素案)への意見を踏まえた活用方法(案)の作成

素案に関する意見交換会での「荻窪消防署天沼出張所を移転改築する場合は、音の問題等について近隣への配慮が必要」などの意見を踏まえて、改めて荻窪消防署天沼出張所を旧若杉小学校跡地に移転改築する場合と仮に上荻保育園及び上荻児童館跡地に移転改築する場合の比較検討を東京消防庁と行いました。

＜荻窪消防署天沼出張所を旧若杉小学校跡地に移転改築する場合と仮に上荻保育園及び上荻児童館跡地に移転改築する場合の比較＞

項目	旧若杉小学校跡地に 移転改築する場合	仮に上荻保育園及び上荻児童館跡地 に移転改築する場合
出張所の整備時期	○ 上荻保育園及び上荻児童館跡地に 移転改築する場合と比べて早期に 移転改築できる	△ 整備の見通しが立たない ※上荻保育園及び上荻児童館跡地 の活用方法は、今後区でも検討 していくため、現時点では上荻 保育園及び上荻児童館跡地への 移転改築は決定しない ※ <u>旧若杉小学校跡地に移転改築 する場合と比べると移転改築の 時期が遅れる</u>
幹線道路までの アクセス	△ 日大二高通りまでの道幅が狭い	○ 青梅街道までのアクセスが良い
敷地面積	○ 現在よりも敷地面積を大きく確保 でき、訓練や講習スペースなどの 必要な機能を整備できることや、 地域の行政需要を踏まえた緊急 車両の配置が可能となり、地域の 防災力向上につながる	△ 現時点で敷地面積をどのくらい 確保できるかは分からない
近隣への配慮	△ 緊急車両や訓練などによる音に ついては近隣への配慮が必要	△ <u>旧若杉小学校跡地と同様に住宅や 保育施設と隣接するため、音につ いての近隣への配慮は必要</u>

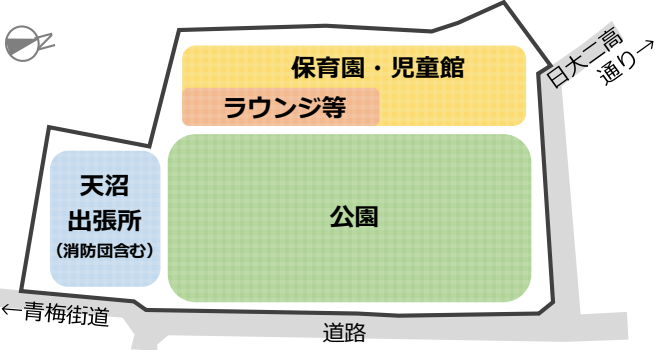
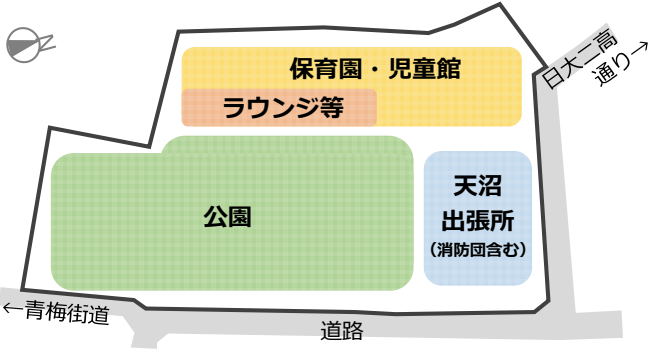
築65年が経過し老朽化が進んでいる現在の荻窪消防署天沼出張所は、敷地面積が非常に狭小であり、駐車や訓練のスペースが十分に確保できないなど、必要な機能を整備できていないことから、東京消防庁では平成27(2015)年から改築用地を探してきましたが、現在まで用地が見つからず、今後の見通しも立っていません。こうした状況や、東京消防庁と行った上記の比較を踏まえ、地域の防災力の向上を図るため、荻窪消防署天沼出張所を移転改築する素案②を活用方法（案）にすることとしました。

ただし、荻窪消防署天沼出張所の移転改築については、訓練による騒音や緊急車両の通行による騒音・事故などに関する近隣住民の不安を解消するため、東京消防庁に対して、近隣への影響を抑えるための対応策を検討するよう要望していきます。

なお、東京消防庁が現時点で検討している対応策については、P24をご覧ください。

6-2. 活用方法（案）の概要

東京消防庁との検討結果等を踏まえ、公園エリア、共有エリア（誰でも利用できるラウンジ等）、子どもエリア（上荻保育園及び上荻児童館の移転）に加えて、消防エリア（荻窪消防署天沼出張所の移転）を整備する素案②を活用方法（案）としました。

項目	活用方法（案）	
整備する施設等	○（仮称）旧若杉小学校跡地公園：現校庭（約2,000㎡）の1.5倍程度	
	○上荻保育園及び上荻児童館を移転改築するとともに、誰でも利用できるラウンジ等を設置	：2～3階建ての建物
	○荻窪消防署天沼出張所（東京消防庁が整備）	：2～3階建ての庁舎等
施設の配置イメージ(案)	【配置案①】 荻窪消防署天沼出張所を 敷地南側 に配置	【配置案②】 荻窪消防署天沼出張所を 敷地北側 に配置
		
○荻窪消防署天沼出張所は、素案②の整備イメージ（案）では敷地南側に配置していましたが、素案に関する意見交換会等で「荻窪消防署天沼出張所の配置は、南側だと日大二高通りまでの距離が長くなるとともに、道幅の狭い一方通行の道路を通行することにもなるため、北側の方が良いのではないか」などの意見があったことから、具体的な配置について、東京消防庁と協議しながら決定していきます。		
スケジュール（予定）	令和8(2026)年度～：既存校舎の解体設計及び施設等の設計 令和9(2027)年度～：既存校舎の解体工事及び施設の建設等工事 令和13(2031)年度頃～：施設等の開設 ※荻窪消防署天沼出張所については、東京消防庁が設計し、区の建設等工事後に建設工事を行う予定です。	
保育園及び児童館等の跡地活用	○現在の上荻保育園及び上荻児童館の跡地については、今後、活用方法を検討していきます。 ○荻窪消防署天沼出張所の跡地については、今後、区での活用を検討した上で、活用を希望する場合は東京都と調整していきます。	

7. 各施設等の整備に当たって

各施設等の整備に当たっては、これまでにいただいたご意見等を踏まえた上で、設計等の検討を進めていきます。

📍（仮称）旧若杉小学校跡地公園の整備

🔊 主なご意見等

- 子どもたちを伸び伸びと遊ばせてあげたい。
- ベンチや遊歩道を設け、のんびりできる空間にしてほしい。
- イベント開催時にキッチンカーが入れるようにし、にぎわいを創出してほしい。
- 防災や暑さ対策の観点から、みどりが多いと良い。
- オープンスペースを作る際には、不特定多数の人から家屋内が見えてしまうなど、近隣に住む人の生活環境を脅かすような配置はやめてほしい。
- 災害時の対策として、広い屋外エリアは必須。
- 災害時に備え、災害時給水ステーションや貯水槽、マンホールトイレなどの防災設備を設置してほしい。
- 不特定多数の人が利用するので、防犯対策もしっかり考えてほしい。



整備に当たって

子どもから高齢者まで誰でも気軽に立ち寄れ、つながりが生まれるとともに、災害時に活用できるような公園を整備します。

- 具体的な遊具や植栽の配置等については、令和8(2026)年度から実施する設計の中で、子どもから高齢者まで幅広く意見を聴きながら検討していきます。
- 災害時の避難スペースとして活用できるように、オープンスペースを一定程度確保した上で、約1,500人が最低3日間過ごすのに必要な食料品・物資などを保管できる災害備蓄倉庫や生活用水などに活用できる防災井戸、マンホールトイレなどの防災設備の設置について検討していきます。
- 安全対策として、職員等による見回りを実施するほか、防犯カメラの設置等を検討していきます。

<エリアのイメージ（例）>

下高井戸おおぞら公園



田園調布せせらぎ公園



画像 : <https://kkaa.co.jp/project/denenchofu-seseragi-hall/>

7. 各施設等の整備に当たって

📍 上荻保育園及び上荻児童館の移転改築

🔊 主なご意見等

- 小学校低学年がいる中で、中・高校生は遊びにくいと思う。中・高校生も利用しやすくするため、中・高校生の使いやすい体育館があったり、利用時間が区切られていたりすると良い。
- 児童館を整備するに当たっては、子ども当事者の意見を聴いてほしい。
- 既存の体育館を残して、ボール遊びができるようにしてほしい。
- 誰でも立ち寄ることができる公園等に隣接するため、セキュリティ対策が必要だと思う。
- 災害時に子どもの居場所が確保できると良い。
- 荻窪消防署天沼出張所を整備する場合、保育園や児童館の運営に支障が出ないように配慮が必要。



整備に当たって

子どもや子育て家庭が安心して過ごすことができ、伸び伸び活動できる場として、上荻保育園及び上荻児童館を移転改築します。

- 児童館は、0～18歳までの全ての子どもたちが自由に利用できる施設ですが、移転後の上荻児童館については、「中・高校生機能優先館」に位置付け、特に中・高校生の居場所機能を充実させていく考えです。
- 中・高校生が使いやすい施設になるよう、令和7(2025)年度に実施している中・高校生とのワークショップでの意見等を踏まえた上で、開館時間のほか、楽器練習室やダンスが練習できる多目的室などの整備を検討していきます。また、中・高校生が児童館の運営に主体的に参加できるような仕組みづくりについても検討していきます。
- 児童館に設置する遊戯室は、中・高校生を含む子どもたちがボール遊びをできるようにするとともに、児童館が使用しない時間帯には、地域の団体等に貸し出すことなどを検討していきます。
- 保育園や児童館の出入口には、職員を配置したり、防犯カメラを設置するなど、子どもたちが安全に過ごせるようなセキュリティ対策を検討していきます。
- 災害時には、乳幼児親子が安心して過ごせる場や子どもたちの遊び場を確保できるように、保育園や児童館の諸室の活用について検討していきます。
- 荻窪消防署天沼出張所の整備に当たっては、保育園や児童館の運営に支障が出ないようにするとともに、利用者の安全に配慮した施設配置となるよう東京消防庁と共に検討していきます。

＜公園と併設する保育園のイメージ＞



高円寺東保育園

7. 各施設等の整備に当たって

📍 誰でも利用できるラウンジ等の設置

🔊 主なご意見等

- 誰もが予約なしで利用できるラウンジを設置してほしい。
- 広いスペースを自由に使えるようにすることで、様々な活用が可能ではないか。
- 震災救援所としての機能を確保するため、一定の広さを確保する必要がある。
- 子ども食堂が実施できる調理機能を備えることで、災害時にも活用できる。
- 学び・文化の発信に資する展示スペースを設置してほしい。
- カフェがあると人が集まりやすいのではないか。
- テラス等を設け、公園と一体感を持たせることで、より汎用性が高まる。
- フリースペースであるため、セキュリティ対策は必要。
- 子どもエリアと一体的に運用できれば、子どもたちも立ち寄りやすくなるのではないか。



整備に当たって

子どもから高齢者まで誰でも気軽に立ち寄れ、つながりが生まれるとともに、災害時に活用できるようなラウンジ等を設置します。

- ラウンジは、原則として誰もが予約なしで利用できる空間とし、読書や勉強などができる静かな空間とおしゃべりができる空間を分けるなど、利用者のニーズに合わせた空間づくりを検討していきます。
- また、それぞれの空間を可動式の家具などで緩やかに分けることで、災害時にはラウンジ全体を震災救援所として活用できるように検討していきます。
- 子ども食堂のスペースや趣味の発表などに使えるギャラリーの設置を検討していきます。
- 飲食ができる空間のほか、カフェや飲料等の自動販売機の設置について検討していきます。
- イベント開催時には公園と一体的に利用できるような空間づくりを検討していきます。
- 安全対策として、職員等による見回りの実施や防犯カメラの設置等を検討していきます。
- 子どもから高齢者まで誰もが使いやすい空間となるように、令和8(2026)年度以降に実施する基本設計に当たっては、幅広い世代の意見を聴きながら具体的な設えなどについて検討していきます。

<エリアのイメージ（例）>

須賀川市民交流センターtette



画像 : <https://unemori-archi.com/?works=sukagawa-civic-center-tentative-name>

武蔵野プレイス



画像 : <https://www.musashino.or.jp/place/1001587/1001588.html>

7. 各施設等の整備に当たって

荻窪消防署天沼出張所の移転改築

主なご意見等

- 住宅密集地が多い地域には、消防などの設備は重要だと思う。
- 消防車・救急車の音の問題が心配。道幅が狭いので、事故や通行への支障が起きる気がする。
- 保育園や児童館の運営に支障が出ないような配慮が必要。
- 出張所は旧若杉小学校跡地の南側ではなく北側に配置した方が良いのではないかな。
- 地域の人に参加できる訓練も実施してほしい。



整備に当たって

天沼地区の防災活動拠点として、荻窪消防署天沼出張所を移転改築します。

.....

現在よりも敷地面積を大きく確保でき、訓練や講習スペースなどの必要な機能を整備できることや、地域の行政需要を踏まえた緊急車両の配置が可能となり、地域の防災力向上につながります。なお、東京消防庁が現時点で検討している近隣への影響を抑えるための対応策については、以下のとおりです。

<音の問題への対応策（案）>

- 交通法規上は、緊急車両の出動の際にサイレンを鳴らす必要がありますが、近隣住民の意見を踏まえて、影響が少なくなるような検討を行っていきます。
- 出張所では、消防隊の活動能力向上を目的に訓練を実施していますが、近隣住民や保育園・児童館の意見を踏まえて、訓練の日時や実施方法等を検討していきます。

<通行の問題への対応策（案）>

- 歩行者などが安全に通行できるように、車両通行時に誘導員を配置するほか、安全に緊急車両が出入りできるような施設の配置を検討していきます。
- 配備する緊急車両の種類や台数については、周辺の道路状況及び地域の行政需要を踏まえて、今後検討していきます。

<その他>

- 出張所の具体的な配置については、音や通行の問題などを踏まえた上で、区と東京消防庁で協議しながら決定していきます。また、出張所の移転改築に併せて、敷地の南東にある荻窪消防団第1分団との連携を一層強化するため、出張所と団施設の一体整備についても検討していきます。
- 新庁舎には、地域住民を対象とした自衛消防訓練や救命講習等に活用できるスペースの設置を検討していきます。
- 荻窪消防署管内の各出張所の平均的な1日当たりの出動回数は、消防車が約1回、救急車が約8回程度です。

8. 今後のスケジュール

令和7年12月

(2025年)

- ・ 活用方法（案）を反映した区立施設マネジメント計画（修正案）に関するパブリックコメントの実施
- ・ 活用方法（案）に関する説明会の開催

令和8年1月

(2026年)

活用方法の決定

活用方法（案）に対するご意見等を踏まえて、活用方法を決定します。

令和8年度～

(2026年度)

既存校舎の解体設計及び施設等の設計
決定した活用方法に基づいて、設計を行います。



令和9年度～

(2027年度)

既存校舎の解体工事及び施設の建設等工事
設計に基づいて、解体工事及び建設等工事を行います。

令和13年度頃～

(2031年度)

施設等の開設

※荻窪消防署天沼出張所については、東京消防庁が設計し、区の建設等工事後に建設工事を行う予定です。

